■細川ガラシャ(玉子)

ほそかわがらしゃ
大村純忠受洗1563＝

キリシタン。明智光秀の娘で細川忠興の妻。関ヶ原の戦で、人質を拒み、家臣に胸を突かせた。

明智光秀の四女に生まれる。母は妻木勘解由左衛門範照の娘。本名玉子。4人姉妹の末で3人の弟がいる。

足利義昭が朝倉義景を頼って越前にいた時に、その家来だった細川藤孝と父光秀が知合い、

織田信長入京1568＝ 5歳：父光秀の藤孝への働きかけで、織田信長の義昭を奉じての入京が実現、

比叡山焼討・1571＝ 8歳：父光秀が近江坂本城主となり、その城郭が整って行くなか、

三方原の戦・1572＝ **9歳**：

室町幕府滅亡1573＝10歳：義昭が追放されると、藤孝は信長に乗り換え、父光秀と藤孝の結束をさらに強固にしようとする、

長島一揆鎮圧1574＝11歳： **織田信長の命で、山城国青竜寺城主細川藤孝(幽斎)の長男忠興と縁組、**

上杉謙信没・1578＝15歳：忠興は父藤孝に従い雑賀一揆討伐で初陣。 **婚礼が青竜寺城で行われる。**

安土教会許可1579＝16歳：長女を出産、

石山合戦終・1580＝17歳：長男忠隆を生む。信長が丹波・丹後を平定、父光秀は丹波を与えられて亀山城主となり、藤孝が丹後を与えられたのに従って、 **宮津城に移り、順風満帆な生活を送っていたが、**

バリニャノ謁見 1581＝**18歳**：

本能寺の変・1582＝19歳： ***父光秀が主君の信長を討って一変、父光秀の誘いを退けて信長への弔意を顕わにした細川藤孝・忠興父子に離縁されて丹後国味土野に幽閉され、父光秀は豊臣秀吉に囲まれ、逃亡中、農民に刺殺される。**

藤孝のいとこで高名な儒学者ながらバテレンと宗論を闘わせてキリシタンになった藤原枝賢の娘 **清原**いとかが側近として幽閉先に付いて来てくれ、心の支えとなったばかりか、学識や教養を培われるなか、既に身籠っていた次男興秋を出産するも、忠興の側室お藤が女兒を出産したのを聞き、夫との距離が広がるなか、

長久手の戦・1584＝21歳： **豊臣秀吉の命により復縁を許されて、大坂玉造の細川邸に戻るが、謀叛人の娘という宿命に、しばしばうつ病に悩まされ、感情の起伏も激しくなり、壮絶な夫婦喧嘩をするようになり、離婚も望むようになる。**

秀吉太政大臣1586＝23歳：三男忠利を生んだ。 **玉子の美貌を聞いた秀吉から大坂城に招かれると、短刀を懐中に登城して発覚したが、かえって秀吉に賞される。夫から高山右近がキリスト教の教義について語るのを聞いて関心をもち、**

パレノ追放令 1587＝24歳： ***忠興が島津征伐のための出陣中に、侍女らと屋敷を抜け出し、大坂の聖堂に行き、スペイン人パードレのセスペデスと日本人イルマンの高井コスメに会って、説教を聞き教理について質す。その理解力がセスペデスを驚かせた。家臣に連れ戻され、外出を禁じられたため、以後、清原いとは通じて学び、いとが受洗してマリアとなった後、侍女16人を次々外出させて受洗させるも、自らは叶わず、ついにセスペデスの許可により、マリアから受洗、ガラシャとなると、生まれ変わったように快活になり、謙虚で穏やかな人格者に変貌して、周囲の人たちを驚かす。九州から帰還した忠興は激怒し、見せしめに乳母を傷つけたりするも、なお妻を愛して、外部には隠し続けられるが、**

刀狩海賊取締1588＝25歳：次女を生み、

秀吉全国統一1590＝**27歳**：

この間、 **司祭らと通信して信仰を深め、次男・長女・次女にも受洗させ、**

慶長の役・・1597＝34歳：この年、秀吉の命で、長男忠隆が前田利家の娘と婚姻、

豊臣秀吉没・1598＝35歳： **この年になって、三女を出産するなど、離縁できずにいるうち、覚悟を決め、**

前田利家没・1599＝**36歳**：

関ヶ原の戦・1600＝37歳： ***徳川家康の東征に従って忠興が出陣中に、石田三成が細川邸を包囲して人質なるよう要請するのを拒み、家老の小笠原少斎が逃亡させようとするのにも応じず、逆に介錯するように言いつけ、礼拝堂に入って祈った後、胸を突かせて、自害した。それに先だって、忠隆の妻が殉じようとするのを止めて逃がし、侍女らには暇を出し、老女おくと侍女霜だけには、最期の様子を忠興に伝えるように命じた。後に、孫にあたる光尚の求めに応じて、霜がその様を書き上げたのが「於しも覚書」である。石田方はその壮絶な死に驚いて、諸大名の奥方を人質にとる作戦を止め、家康圧勝の一因となる。忠興はキリスト教式の盛大な葬儀を営むことで、愛妻の非業の死を悼んだ。**